

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090500048		
法人名	特定非営利活動法人 心		
事業所名	グループホーム げんき		
所在地	長野県飯田市座光寺3601-12		
自己評価作成日	平成22年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年4月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090500048&amp;SCD=320">http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2090500048&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成22年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と職員がひとつの家族の様に暮しながら笑顔、笑い声の絶えない明るい家族でありたい。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

元善光寺に近い、工場跡地を改修した「なじみ」「人間らしさ」を理念に掲げたグループホームである。この元善光寺の節句毎の行事(菊人形、節分、桜祭りなど)には、太鼓の音色がホームまで響き渡り、近所を散歩していると近所の方々が気軽に声をかけて交流がある。また地元の中学生や多くのボランティアとの交流もあり地域と共に歩んでいる。家族会では、家族同士の話し合いの場を設けるなどして、家族の意見をホームの運営に活かせるよう努めている。職員は、利用者との係り等に意欲的であり、高齢化による利用者の身体機能の衰えをカバーする為、工夫を凝らし、共に生活を楽しみながら理念に沿って、利用者の笑顔一杯あふれる家庭的な一日一日を大切にしたい穏やかな暮らしを目指している。
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名( )		項目	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を念頭に置き、日々支援する様に職員会議、ケア会議の中で共有している。	法人共有の「なじみ」「人間らしさ」の理念を掲げ、職員は理念を常に意識しながら、定例の職員会、ケア会議において理念に沿った支援が活かされているか、問いかけをしながら確認をしている。職員からのアイデアもあり、この事業所独自の理念を作成する計画がある。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の一部の方は、地域での催しに稀に参加した事はあるが、日常的に交流は出来ていない。	散歩や買い物に出掛け、地域の人達と挨拶を交わしている。ご近所から野菜のお裾分けを頂いたり、中学生やボランティア、近所の方々とのふれあいを大切にしている。又自治会にも加入し、地域での活動を担っていくよう努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状利用者の支援のみとなっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の会議を開催する中で利用者の状況、活動の様子など報告している。又地域の方よりの意見を聞く中で交流を深める方向に取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催されており、委員からの提案やホームの活動の様子など報告し、話し合いを通じて意見を頂き、それをホームの運営に活かすよう職員会等で再度検討を図っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業者連絡会等に参加する中で、折に触れ情報交換をする様努めている。	運営推進会議には、地域包括センターの担当者にも出席してもらっている。又、市の担当者には、相談等こまめにしており、情報提供や協力をいただいている。	

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の研修に各職員が毎年参加しており、職員会議の場で落とし込んでいる。	管理者及び職員は、拘束による弊害等の研修を通じて、共有認識を図っている。家族には、利用者固有のリスクを含めた説明を行い、理解を得ている利用者もいる。	安全のための拘束の場合でもその弊害を理解し、行動への関わりでなく、生活を整える「気付き」を持つための研修や事故事例の検討をされることを期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に各職員が毎年参加しており、職員会議の場で落とし込んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修に参加をしているが、現状該当者はない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に利用者、家族との間で契約内容の説明を行い、理解、納得をして頂いている。又重度化、看取りについて要望を聞いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年家族会を立ち上げ、家族の方々のみで話し合える機会を設け、その中で意見、要望を聞き取り組むよう努めている。	年2回の家族会や、家族の来訪時に職員は、積極的に声をかけ意見や要望、苦情等伺うよう努めている。出された意見は職員間で検討し、質の向上やホームの運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員の意見や提案を聞ける機会を持っている。	運営者は、職員からの意見や提案を聞く姿勢を持っており、毎月の職員会や、日常の会話の中から現場の情報を聞くと共に、気付きノートを作成し、職員の意見や提案を運営に反映させている。	

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<b>就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の勤務と一緒に入りながら各職員の思いに耳を傾けている。		
13		<b>職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修に参加出来る機会を提供している。		
14		<b>同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前よりグループホームの集いに参加しており、職員が順番で参加し交流を持てるよう取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談にて生活歴、現在の生活状態を把握する様努めている。		
16		<b>初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の家族の思い、これからの要望を聞く機会を持つ様努めている。		
17		<b>初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネとの調整を行い対応している。		

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前の生活状態を維持できる様支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者から家族の話が出るように声掛け対応し話を聞く様努めている。又家族には体調の変化や行事等様子を報告している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方から知人、友人の方に働きかけて頂いてはいるが、現実出来ていない。	利用者のお友達等の高齢化が進み、訪れる方がやや少なくなる傾向があるが、本人が大切にしてきた関係が途切れない様、お友達の訪問があるとゆっくりお茶を飲んで頂いたり、お盆や正月の一時帰宅、地域のお祭りに出かけて行ったりして、これまでの関係が続くよう、支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方、合わない方がいる中で、職員が場を取り持ち関わりあえる様支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移る際には、これまでの生活環境、支援等の情報を提供している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向を発せない利用者がある中で、職員の意見や、家族の話を聞き本人の思いに近づける様支援している。	職員は、利用者のこれまでの生活暦や得意分野等を把握しながら、利用者の何気ない表情や少ない言葉から、日々の気づきを共有しながら希望や意向を推し量り、その人らしく暮らせるよう支援している。	

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の再調査を行っている。又各利用者の介護記録を記入し、常時閲覧出来る様にしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全職員が常に現状を理解出来る様、申し送りの徹底を図っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合える時間を取り、それを元により良い支援が出る様、職員間にて話し合える様努めている。	介護計画は、3ヶ月ごとに見直し、ケア会議を設け利用者、家族から思いや意見を頂き、職員からの意見も交えて検討し、計画を作成している。家族には、定期的に状況を報告し、来訪時に意見をいただいている。	介護計画は、本人がより良く暮らすためのものである。そのためには、日常職員が情報を共有するため、利用者の小さな変化を見逃さないよう記録に残し、アセスメントとモニタリングを繰り返しながら、本人の意向や家族のアイデアが反映された計画を作成される事を望む。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごと介護記録、身体状況の記録があり職員が確認出来る。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者9名と小規模の為、臨機応変に対応出来ている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年数回ボランティアの方々に訪問して頂き、楽しめる機会を持てる様支援している。		

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の要望するかかりつけ医が利用できており、受診の際には職員が極力、付添える様支援している。</p>	<p>1ヶ月に1回の往診があり、利用者と家族の希望するかかりつけ医となっている。受診時の付き添いは家族となっているが、状況に応じて職員の付き添いもある。その時は家族に情報を適切に伝えている。歯科医の往診もあり適切な医療支援がある。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>現在、看護師がいらない為定期的な往診がある時に相談、アドバイスをもらっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には医師、家族、事業所を交えながら退院時による対応を話し合う様に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族の思い、要望を踏まえ事業所として最大限のケアについての話し合いを行える様取り組んでいる。</p>	<p>ホームでの見取りを希望されている家族が多いため、管理者、職員は、最大限のケアが出来るよう話し合いを行っている。</p>	<p>重度化や終末期に対応した事業所としての指針を作成され、本人や家族、関係者と段階ごとに話し合い、更にホームとしてどこまで出来るか見極め、家族と医療関係者と連携を図りながらチームで支援していくことを期待する。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急救命講習を定期的実施している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年二回避難訓練を実施しており、連絡網、避難経路等のマニュアルを作成してある。</p>	<p>年2回の避難訓練を行なっている。地域の消防団や消防署との協力体制もある。避難時の連絡網や避難経路も作成され、飲料水等の備蓄など整っている。夜間職員にとっては、一番不安な時でもあるので、夜間想定訓練を定期的に行う事を望む。</p>	

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉がけや対応をしている	利用者の人格を尊重しながら対応し、職員間での注意、指導が来ている。	利用者に対しての言葉がけ等の言動については、職員間で注意し合いながら、又年長者として、職員は「私に教えて下さい。」と敬意を持ちながら、高齢者介護の最大のキーワード「尊厳」をケアの中で常に意識しながら支援している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声掛けを行い、意思表示困難な方には表情を見ながら支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で、各利用者に沿った支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪、毎朝鏡を見てもらう等自身自身にいつまでも興味を持ってもらえる様支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部の利用者と食事の準備、片付け等して頂いたり、職員と一緒にテーブルを囲み会話をしながら食事を楽しんでいる。	食事は、一人ひとりの好みを加味しながら、ゆっくりと食べることが出来るよう職員は、気配っている。献立の中には、ご近所から頂いた野菜等を食卓に出され、「地産地消」そのもので、季節の話題が食を通じて盛り上がっている。食事の準備や片づけ等も職員と共に言いながら、その中にも職員のさりげない支援もある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の日々の状態の記録があり、食事のバランスに気を配っている。		

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の手入れ、保持は全利用者行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態が変化する為、定期的な見直しの中で、残存機能の確保に努めている。	高齢化により、介助を要する利用者が多く、排泄チェック表を活用している。尿意の無い利用者には、顔の表情を見て、一人ひとりのサインを全職員で把握しながら、トイレでの排泄が出来るように努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録があり水分補給、定期誘導を行い対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各利用者の入浴記録、入浴意思を確認しながら支援している。	利用者の希望する時間に入浴している。無理強いする事はなく声掛けの工夫や、季節のしょうぶ湯、ゆず湯など工夫している。介助を要する利用者も多くなり、風呂用昇降座椅子を使用する等、入浴して「気持ちよかった。」と満足感を味わってもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の乾燥、清潔に心がけ室内の温度、湿度にも気を配っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々服用している薬の効果、副作用がわかる説明書が常に配備されている。		

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の力量に合わせ声掛けをしている。又職員と一緒に四季折々な飾り付けをしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、本人の状態、希望に応じて買い物や外食に出掛けたりしている。	好天の日は戸外に出て、ご近所の方々と挨拶を交わしたりしている。希望に応じて近所のスーパーの買い物に出掛けたり、お花見や紅葉狩り等少しの遠出のお出かけもあり、気分転換やストレス発散にも役立っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状、金銭管理は家族の意向として家族の管理となっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	関係を断ち切らない様支援して行きたい。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に生花を生けており、四季を感じられる様な貼り絵、イラスト等利用者で作成し飾っている。	利用者が集うフロアは、台所と一体となっていて、食事の匂いや野菜を刻む音など、これまでの家庭での暮らしが続いている雰囲気である。壁には、季節の飾り物がさりげなく飾られ、豊の間で寝転んだり仲間との語らいは利用者にとって、居心地のよい場となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者方は座敷の炬燵で過されたりしながら個々好きな場所で過している。		

外部評価結果(グループホームげんき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が以前より使用していた家具等を居室に置いてあり、又家族の写真、懐かしい写真を飾ったりしている。	一人ひとりの部屋は、大切な家族との思い出の写真や、仲間同士で作られた作品等それぞれ飾られている。利用者に合った使い易い家具等が配置され、その人らしい部屋作りがされ、利用者の穏やかな暮らしを伺うことが出来る。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の居室が理解出来る様、名札やイラストをドアに貼ってある。又トイレにもプレートが貼ってある。		